青空文庫 (6)「源氏物語」桐壺 (26) 紫式部 與謝野晶子訳　　月　　日　名前

見ながら練習

なぞって練習

その年の夏の御息所、桐壺の更衣あがりを、帝はことのほかに時めかしたまふ。上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかることの起こりにこそ、世も乱れあしかりけれと、やうやう天の下にも、あぢきなう人のもてなやみぐさになりて、楊貴妃の例も引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなきを頼みにて交らひたまふ。

※御息所【みやすどころ】: 青空文庫のフリガナより
※皇子女【おうじじょ】: 青空文庫のフリガナより

copyright (c) まる字の無料ペン字練習と漢字検定テキスト集 all right reserved.